

地球温暖化防止のために

富士宮市内中学校

稲葉さん

多くの人が、「地球温暖化」が世界的に問題視されていることを知っているだろう。地球温暖化の主な原因は、二酸化炭素などの大気中の温室効果ガスによるものだと言われている。これからは二酸化炭素を増加させないことが最も大切だと私は考えている。しかし人類が生き続けている限り、二酸化炭素を排出せずに暮らすというのは大変難しい話であると思う。多くの人が対策として、家庭内のエアコンの温度調節や節電などを心がけているが、私は「森林」に注目した。森林を構成している樹木は光合成によって二酸化炭素を吸収し、酸素を排出している。今後、森林は地球温暖化の進行を抑える貴重な資源となっていくと思う。

私は総合的な学習で地域の山や森林について調べている。ある日、地域のボランティアの方にお話を伺った。

「この地域の山にある杉は、ほとんどが放置林となっています。」私はこのことが地球温暖化と私の住んでいる地域が結びつく内容になっているのではないかと考えた。そこから放置林がもたらす地球温暖

化への影響を調べることにした。放置林は樹木が密接になり、光が地表に届かないため、光合成の効率が低下すること。樹齢とともに光合成の効率は低下するため、若い樹木ほど多くの二酸化炭素を吸収し、酸素を排出すること。この二つについて知った。つまり、私の地域にある山の森林は二酸化炭素の吸収量が少なくなっており、本来、地球温暖化の防止となるはずの森林が、その機能を果たしていないということになるのだ。そこで私はこの地域の山を活用して、どうにか地球温暖化の防止になる活動が出来ないかと考え始めた。

私たちの学校は小、中学校で植林や里山整備などを行っている。私が小学生だったときには実際に授業の一環としてフジバカマを植林することがあった。中学校でもこれから里山整備をする予定だ。私が小学生のときに植林をしたときには、特に関心を持っていなかったが、地球温暖化と森林の関係について興味を持ち始めてから、放置林だらけの山に新たな植物を植えることで、地球温暖化の防止になるのではないかと考えるようになった。地域の山には一部、伐採されている部分があり、総合学習に取り組みまでは、そこがどのような意図で伐採され、どのように活用されているか分からなかった。しかし、総合学習に取り組み、実際にボランティアの方々の話を聞いてみると、放置林となってしまった杉を伐採し、新たにヤマザクラを植林したという

ことが分かった。ヤマザクラを植えた理由には「この山を少しでも鮮やかにし、この地域が盛り上がるきっかけになってほしい」や「土砂崩れ防止」などのボランティアの方々の思いや、地域の安全を考えるものがあった。これらの理由も私自身がずっと考えてきたものだったが、この植林が、地球温暖化の防止にもつながっているのではないかと考えた。新しい植物を植えることで光合成が活発に行われ、私たちの生活の中から排出された二酸化炭素が吸収される。この小さな町での行いが、そんないいサイクルが行われる小さなきっかけなどになっていったらいいなと思った。そして私も実際にシバザクラの植付けを行った。真夏の暑い日に、上下ジャージを着て山に登った。虫も多く出てくる中での活動だったため、植付けをしている最中には、もうやめたいと思う瞬間もあったが、私たちの未来のために少しでも良いきっかけを作ろうという思いで、必死に最後まで取り組むことが出来た。ボランティアとして、地域の環境保護に貢献できたような気がして嬉しかった。

地球規模の話は自分事として捉えることは難しいかもしれない。しかし、少しでも現状を知り、貢献しようという思いをもって行動に移してみるのが大切なのではないだろうか。地球温暖化の対策の中には家で簡単に無理なくできるものも多い。しかし植林は、土地や人手

など多くの資源が必要となり、簡単に実行できるものではないかもしれない。しかし、この地域でできることを率先して行っていききたいと思っている。私は自分たちの地域だからこそできることを探し、これからも実行していきたい。